

未来への投資としての税金

神戸市立湊川中学校3年2組
大松 庄介

二〇二五年、大阪・関西万博が開催されている。この大規模な国際イベントには、多額の税金が使われており、それに対する賛否の声もある。私は、万博に税金を使うことには意味があると考えている。その理由は、税金には現在を支える役割と、未来への投資という二つの側面があるからだ。

まず、税金は私たちの生活を支えるために使われている。学校の教科書、病院、災害への対応など、日常生活に必要なサービスやインフラの多くは、税金によってまかなわれている。これは税の現在を支える役割であり、多くの人がその恩恵を受けている。

一方で、税金は未来のためにも使われている。これが投資としての税金だ。今回の万博は、まさにその代表例と言える。万博では、医療技術、人工知能、再生可能エネルギー、環境問題など、これからの社会に必要なテーマが世界中から集められている。これらの知識や技術は、今後の社会にとって重要なヒン

トや解決策になりうる。

さらに、万博によって国内外から多くの人々が日本に訪れ、経済や、地域にもよい影響をもたらす。観光業や交通、飲食業などの分野が活性化すれば、そこに新たな仕事や収入が生まれる。これは一時的な効果にとどまらず、地域の持続的な発展にもつながる可能性がある。

もちろん税金の使い道は慎重であるべきだ。万博は当初の予算を超える費用が発生し、それに対する批判の声も出ている。こうした問題は、しっかりと検証し、無駄を防ぐ必要がある。ただし、費用がかかったから無意味という結論にはならない。大切なのは、その支出が将来にどうつながるかという視点で評価することだ。短期的な損得だけではなく、長期的な価値に目を向けることが求められる。

私はまだ税金を納める立場にはないが、いずれ社会人となれば納税者になる。そのとき、自分が納めた税金が、社会の発展や人々の生

活のために使われていると実感できれば、納得して支払うことができるはずだ。もし、税金の使い道に不満や疑問を感じたときには、ただ不満を言うのではなく、自分なりに考え調べ、意見を持つことが大切だと感じる。

私は、万博をきっかけに、税金への見方が少し変わった。これまで以上に、社会の仕組みや政策に目を向け、未来のために何ができるのかを考えるようになった。税金は、私たち一人一人の意識と選択で、未来の形を変えていく力になる。だからこそ、その重みを知り、責任ある納税者となれるよう、成長していきたい。